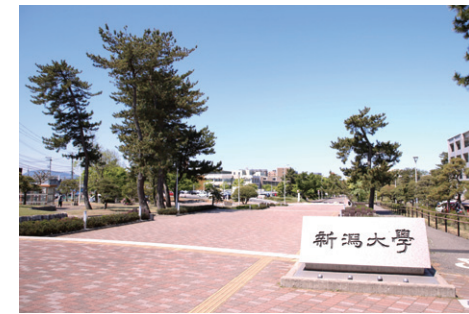




「知を結び、未来を拓く」 世界水準の研究力強化 自ら問い、行動する力を育む



そめやしゆき
染矢俊幸学長

1983年東京大学医学部医学科卒業。
1990年医学博士(滋賀医科大学)。1998
年新潟大学医学部教授。同大医学部長、理
事・副学長などを経て2026年より現職。

SUMMARY

1870年に設置された共立病院を源流とし、数多くの前身校の歴史を礎に
1949年に誕生した新潟大学は、豊かな自然と港町ならではの歴史を背景に、
地域と世界をつなぐ知の拠点として発展を続けてきました。
現在は、未来のライフ・イノベーションのフロントランナーとなることを
将来ビジョンに掲げ、10学部5大学院研究科と医歯学総合病院、脳研究所
や災害・復興科学研究所などを擁する国内屈指の総合大学として、教育・研
究・医療を通じた社会貢献を展開。国の研究力強化や教育改革を推進する
「J-PEAKS」と「FLAGS」に連続採択されるなど、時代の要請に応える先
進的な大学改革を力強く推進しています。

01 変化し続ける時代に対応できる 人材育成を目指す

種多様な学問が揃う総合大学の強み
を活かし、異なる知を結びつけて未
来を拓く挑戦を続けている新潟大学
は、教育と研究、そして社会共創を個別に切り
離すのではなく、すべてを一体のものとして連
動させていく体制づくりに注力しています。

こうした中、新潟大学は研究大学としての基
盤を強化する「J-PEAKS」と、大学院教
育改革を牽引する「FLAGS」という2つの
重要事業に連続採択され、大きな変革期を迎え
ています。
同大の根幹を支える理念は、自らを律し、深
く思索し、時代の要請に応じて新しい価値を創
り出す「自律と創生」です。この礎のうえに、
人材育成の理念として掲げられているのが「真
の強さを学び」という姿勢です。ここでいう強
さについて、染矢俊幸学長は「困難な状況に
あっても思考することを止めず、他者と協力的
に対話し、よりよい選択を模索し続ける力」と
位置付けます。

この理念のもと、社会の中で果たすべき使命
を「知を結び、未来を拓く」と捉え、「専門性」
「学際性」「実践性」を重視した教育を展開して
います。

この3つの関連性を紐解いていきましょう。
まずは大学教育の基本として、自分の専門分野
を深く掘り下げる「専門性」を確立。これが社
会で活躍する基盤であり、他分野と協働する上
での確固たる強みとなります。しかし、現代の
複雑な社会課題を見渡したとき、一つの専門分
野だけで対応できるものは多くありません。そ
こで重要となるのが、異なる専門分野の知を学
び、総合知を身につける「学際性」です。

02 大学院教育を刷新する 「FLAGS」の挑戦

具体的には、入学時の専門の枠を越えて別の
分野へも関心を広げられる「メジャー・マイ
ナー」制を確立。専門の殻に閉じこもることな
く、多角的な視点を養うことを可能にしていま
す。さらに、地域社会に入り、課題に触れる
「ダブルホーム」などの「実践性」の学びを通
じて、社会での協働を体感的に学んでいきます。
こうした専門や領域の枠を超えた学びを通じ
て、新潟大学が何よりも養おうとしているのが、
自ら問いを立て、考え続ける力です。
特に近年は、生成AIの発達によって答え自
体は簡単に手に入るようになりました。だから
こそ、その前提となる「問いを立てる力」の重
要性はこれまで以上に増しています。学内の教
育では、まさにこの激変する時代を生き抜くた
めの思考力を養うアプローチを強化しています。

学

部教育での学びの先に、高度な専門
性と実践力をさらに伸ばす舞台とし
て推進されているのが、質の高い博
士人材の増加を図る大学院教育拠点を支援する
文部科学省の事業「FLAGS」です。「総合
型」の採択枠に選定されたこの事業を通じて、
グローバル社会を牽引する博士イノベーター育
成大学院拠点を進め、博士人材を10年かけて
3倍に増やすことを目指しています。

染矢学長は「博士イノベーターとは、大学の
中に残る研究者だけを意味する言葉ではありません」
と語ります。同大が定義する「博士イノ
ベーター」の本質は社会での実践力にあるので
す。高度な専門性を武器に総合知と実践知を発
揮し、企業や自治体、国際社会など、多様な舞
台で新しい価値を生み出せる人材の育成を掲げ
ています。

04 正解を覚えるのではなく 思考し続ける姿勢を

Xなどの多彩なプロジェクトを展開しています。
これらには学部生や大学院生も多数参加してお
り、定員を大きく上回る希望者が集まるなど、
意欲的な学びの現場となっています。
大学にこのような世界水準の研究力を有する
領域があるということは、学部生にとっても日
常的に最先端の知に触れられる、総合大学なら
はの豊かな学びの環境そのものといえます。

新

潟大学が描く未来の方向性は、これ
らFLAGSによる教育改革と、
J-PEAKSという研究力強化を
両輪として一体的に推進し、「知の循環」を強
めることにあります。染矢学長は「研究で生ま
れた知が教育に還元され、教育で育った人材が
社会で活躍し、社会の現場から新たな研究課題
が生まれる。その循環を強めることが、これか
らの新潟大学の方向性です」と展望を示します。
優れた研究力は、教育の質を高め、地域や産業
との連携を支える基盤となるのです。現在の学
生、そしてこれから入学する受験生に向けて、
染矢学長は次のようなエールを送ります。

「失敗を恐れず、自分の問いを持って学び続け
ることが大切です。大学の学びは、正解を覚え
ることだけではなく、自分が何に関心を
を持ち、何を解決したいのか、どのような社会
をつくりたいのかを考える時間です。入学する
時点で明確な目標がなくとも構いません。講義
や実験、地域社会との関わり、そして海外に目
を開く経験。その一つひとつが、自分自身の問
いを育てていきます。最高の舞台が整った環境
で、自分の問いを見つけ、仲間とともに育て、
未来を拓く力に変えていってほしいと願ってい
ます」

新潟大学

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
広報事務室 TEL 025-262-7500
https://www.niigata-u.ac.jp/



PICK UP 総合大学だから実現できるメジャー・マイナー制による学び 「全学分野横断創生プログラム (NICE プログラム)」

所属学部での専門分野（メジャー）と、多様な学問領域を基盤としたマイナー・プログラムとの学びの掛け合
わせを実現させるための新潟大学独自の教育のしくみ。複雑化する社会課題に対して複眼的視野でアプローチでき
る人材の育成を目指す。マイナー・プログラムの修了者には、修了証が授与される。



(1) 博士イノベーター

卓越した独自の専門性を軸に、異なる領域を繋ぐ総合知と、現場に活かす実践知を兼ね備えた人材。最先端の科学と社会のニーズを結び、産業界や地域など幅広い舞台で新たな価値を創出する。学術の世界に留まらず、社会のあらゆる現場でイノベーションを巻き起こす変革の原動力として、新潟大学がその育成を目指している。

(2) 新潟大学将来ビジョン2030

新潟大学が2030年に向けて策定した全学的な基本方針。社会の持続的な発展や命の未来に貢献する教育・研究・医療の実現を掲げる。

研究大学としての基盤強化を目指すJ-PEAKSや、大学院教育を刷新するFLAGSといった大型改革も、このビジョンのもとで力強く推進されている。